

聖霊降臨の主日

第一朗読 使徒言行録 2・1-11

第二朗読 一コリント 12・3b-7、12-13

福音朗読 ヨハネ 20・19-23

2026.5.24

カトリック高円寺教会 9:30

ニティン・コエーリョ助祭(イエズス会)

兄弟姉妹の皆さん、おはようございます。

高円寺教会の皆さんの中にも、犬や猫だけでなく様々なペットを飼っている方がいらっしやると思います。わたしの知人にも、熱心に鳥を飼っている人がいます。

その中の一人の友人が、とても美しい声で歌う「ランボ」という名前の鳥を飼っていました。その鳥のランボは、いつも、わたしの友人を見ると彼の名前を呼び、「今日、何を歌いましょうか？」と言うのでした。その時、友人が「ラジオで流れているあの歌を歌ってくれ」と頼むと、ランボはその歌を上手に真似して歌っていました。ランボは歌うとき、じっと動かなくなります。そして、歌っていないときは部屋の中を元気に飛び回っていました。

ある日、ランボが歌っているときに、友人が部屋の掃除をしていました。彼は掃除機をかけながら部屋を回っていました。ランボに近づいたとき、ランボの隣にある汚れを取ろうと思って、掃除機を近くに持っていきました。その時、不注意で、なんとランボが掃除機の中に吸い込まれてしまったのです。友人はパニックになり、大慌てでランボを掃除機から取り出し、シャワー室へ連れて行って綺麗に洗ってみました。

幸いなことに、ランボはまだ生きていました。友人はホッと安心しました。しかし、その事件の時から、ランボは恐怖のあまり、死ぬまで二度と声を出すことはありませんでした。

今日の福音に登場する弟子たちもまったく同じ状態でした。彼らは恐れに支配され、あのランボのように、自分たちの生き生きとした毎日の生活を止め、部屋の鍵を閉めて隠れていました。

しかし、ランボは死ぬまで恐れていましたが、弟子たちの場合は違いました。復活されたキリストに出会ったとき、彼らはその恐れを忘れて大喜びしました。それでも、

復活されたキリストの姿が見えなくなると、再び「わたしたちも殺されるかもしれない」と思って恐れていました。

そんな彼らが恐れの状態からすっかり解放されたのは、聖霊が炎のように下りて来て、彼らの上にとどまったときです。聖霊がとどまってから、弟子たちはまるで別人のようになりました。勇気を持って、隠れていた部屋から外へ出て行き、世界の国々の言葉で語り始めます。つまり、彼らは「新しい創造」へと造り変えられたのです。

使徒パウロによると、聖霊はわたしたちを新しい創造にするだけでなく、様々な賜物たまものをも与えてくださいます。国々の言葉で語ることは一つの賜物ですが、それ以外にも多くの賜物があります。カトリック教会が大切にしている「聖霊の七つの賜物」です。それは、智慧、聡明、達識、知識、剛毅、孝愛、そして畏敬です。

洗礼を受けているわたしたち一人ひとりのうちにも、同じ聖霊がとどまっています。ということは、わたしたちも既にこれらの聖霊の賜物を持っているはずですが、わたしたちが神様からいただいている固有の賜物とは、一体何でしょうか。

今日は聖霊降臨の主日です。聖霊が降臨したこの日こそ、教会が社会に向かって力強く動き始めた瞬間であり、まさに「教会の誕生日」と言えます。ですから、今日、この教会の呼びかけに応じて、教会のために共に祈りましょう。教会とは単なる建物ではなく、キリスト者であるわたしたち自身のことです。つまり、わたしたち自身のために祈るのです。

どうぞ、目を閉じて、心の中でわたしとともに祈ってください。

「神である聖霊よ、教会を導いてください。そして、わたしたちを導いてください。わたしたちの心を、主イエス・キリストの心のように変えてください。アーメン」。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>